

シグマ委員会核データ専門部会核データ評価W.G.
重核 Sub W.G., 実験法評価 Sub W.G. 関係者会合議事録

1. 日 時 昭和59年 8 月 28 日 (火) 13:30~17:30
2. 場 所 日本原子力研究所 東海研究所 研究 2 棟 221 号室
3. 出席者 村田, 川合 (NAIG), 神田 (九大), 松延 (住原工),
中島, 菊池, 中川 (原研)

4. 配布資料

- HN-84-05 同時評価のための実験データシートのフォーマット。(中川)
HN-84-06 重い核の実験の cov. に関する Format (メモ)。(神田)
HN-84-07 Systematic Error Data の取扱例 (^{240}Pu)。(村田)
HN-84-08 部分誤差の表 (^{239}Pu)。(川合)
HN-84-09 共分散データ作成用入力データの問題点。(松延)
HN-84-10 重い核同時評価 SWG 討議資料。(神田)

5. 議 事

1. 前回議事録の確認
2. 実験データのフォーマットについて
配布資料 (HN-84-05) をもとに中川委員が実験データシートのフォーマットを説明した。Covariance データを受け取る九大側の希望を神田委員が説明した (資料 HN-84-06)。
3. 実験データシート作成上の問題点
各核種の担当者が実験データシートを書く上で生じた問題点について議論した。
4. 配布資料 HN-84-10 をもとにした議論
神田委員が準備した資料をもとにして同時評価の基本的な方針について議論した。

○核種と反応

$^{197}\text{Au}(n, \gamma)$, $^{235}\text{U}(n, f)$, $^{238}\text{U}(n, f)$, $^{238}\text{U}(n, \gamma)$,
 $^{239}\text{Pu}(n, f)$, $^{240}\text{Pu}(n, f)$, $^{240}\text{Pu}(n, \gamma)$, $^{241}\text{Pu}(n, f)$

○エネルギー範囲

20 keV ~ 20 MeV とする。

○ JENDL-2 を初期情報としない。

○結果を Santa Fe Conf. (1985) に出す。

5. 今後の予定

Santa Fe Conf. の25分の講演の場合はAbstract の〆切りが11月15日である。これに合わせて一応の結果を出すために次のスケジュールを確認した。

~ 9月10日 実験データシート記入。

~ 9月20日 Covariance データ作成。九大へ送る。

~ 10月10日 第1回目の同時評価終了。

この時点でW.G. を開き結果を検討する。もし問題があれば第2回目の同時評価を以下の様に行う。

~ 10月20日 Covariance データの見なおし。場合によっては実験データシートの再作成。

~ 11月5日 第2回目の同時評価終了。

必要であれば、さらに12月末までに第3回目の同時評価を行う。

Abstract を11月7日までに発送すれば〆切りに間に合う。